

いもう 葦毛通信



ウメバチソウ

2024年1月15日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町三丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 149

1、2023年度大規模植生回復作業を開始しました！

葦毛湿原の大規模植生回復作業は2012年度（2013年1月）から開始し、今年で12年目になりました。今年度は11月7日（火）から作業を開始しました。作業は11月から2024年3月まで年末年始を除く毎週火曜日の9～12時、毎月第3日曜日の9～12時に行う予定です。

都合により日時を変更する場合がありますが、作業は公開しており、葦毛湿原では木道の上から自由に見学ができます。興味のある方は是非ご覧ください。

また、**葦毛湿原植生回復ボランティア**も募集しています。興味のある方は**豊橋市文化財センター**（0532-56-6060）までご連絡下さい。



植生回復作業：外来種除去・ネザサの刈取（2023年11月7日）

2、ホソバリンドウとウメバチソウ

葦毛湿原では数が少なくなったホソバリンドウとウメバチソウについて、人工授粉を行って来ました。近年、この2種が開花数を減らしてきましたが、ホソバリンドウは開花が7輪に、ウメバチソウはとうとう開花がゼロになってしまいました。なぜ減ったのか、明らかではありませんが、ヌマガヤやイヌノハナヒゲ等の背の高い植物が増えて日照が確保できなくなっている可能性が高いと思われます。特にイヌノハナヒゲは葦毛湿原の中心部で近年優勢になり、他の植物を圧倒しているように見えます。

1) ホソバリンドウ

ホソバリンドウは2021年には17株だったものが、2022年には7株に減少し、2023年は6株になりました。人工授粉も2021年は8回行いましたが、2022年は4回、2023年は3回でした。2022年から目立って減少しています。

右上写真の中央に2輪咲いています
が、花も小さく数も少ない状態でした。
ネザサやイヌノハナヒゲが増えて日照が悪くなっています。

このままでは絶滅の危険もあるので、
今年はいヌノハナヒゲを除去して日照を確保する実験区を設定する予定です。

2) ウメバチソウ

ウメバチソウも

2021年は4花だったものが、2022年には2花に減って、2023年はとうとう開花がゼロになってしまいました。ウメバチソウは葦毛湿原では地上絶滅の状態です。

ホソバリンドウとウメバチソウはある程度日照がないと成長できないようです。これまで開花が確認できているところは、ヌマガヤやシラタマホシクサの群落の縁辺部で、ホソバリンドウとウメバチソウだけが単独の群落を形成することはないようです。ヌマガヤ等と共生しているように見えます。

今年はこのような環境が保持できるように実験区の設定を行うつもりです。



ホソバリンドウ (2023年10月30日)



ホソバリンドウ (2023年11月19日)



開花状況 (2023年10月30日・11月19日)

3、2023年のナガバノイシモチソウ - 3

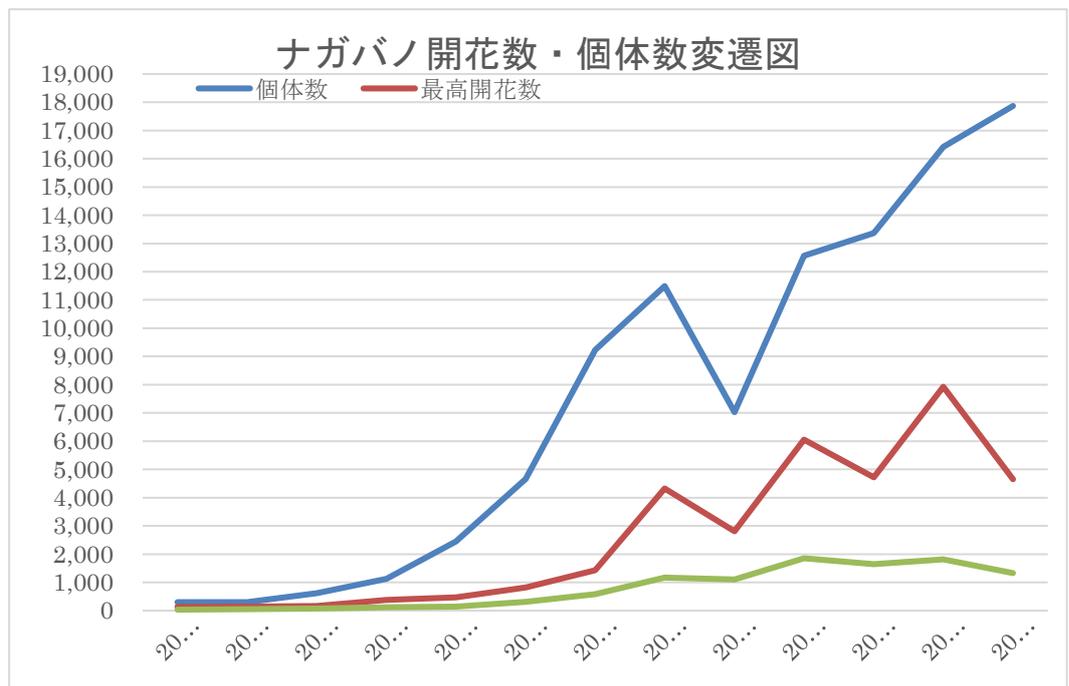
1) 自生個体数の変化

2023年のナガバノイシモチソウの自生個体数は昨年の最高記録を更新しました。個体数は基準日の7月31日で、**17,869**個体になり、昨年同時期の**16,420**個体の約**1.09倍**になりました。昨年より微増という状態ですが、全体としてはまだ右肩上がりが増えている状態です（下図参照）。若干の増減はありますが、全体としては右肩上がりが増え続けています。なお、自生個体数は8月31日には**16,402**個体、9月28日には**10,809**個体になり、7月31日より約40%減りました。これまでは、8月末～9月末頃が自生個体数のピークでしたが、今年は異常な状態です。

最高開花数と平均開花数も減っていますが、個体数の減少が大きく影響していると考えられます。

2) 開花数の変化

今年はナガバノイシモチソウの一日の最高開花数が**4,656輪**となり、2022年の**7,926輪**より約60%減りました。平均開花数は**1,327輪**となり、2022年の**1,818輪**より約27%減りま



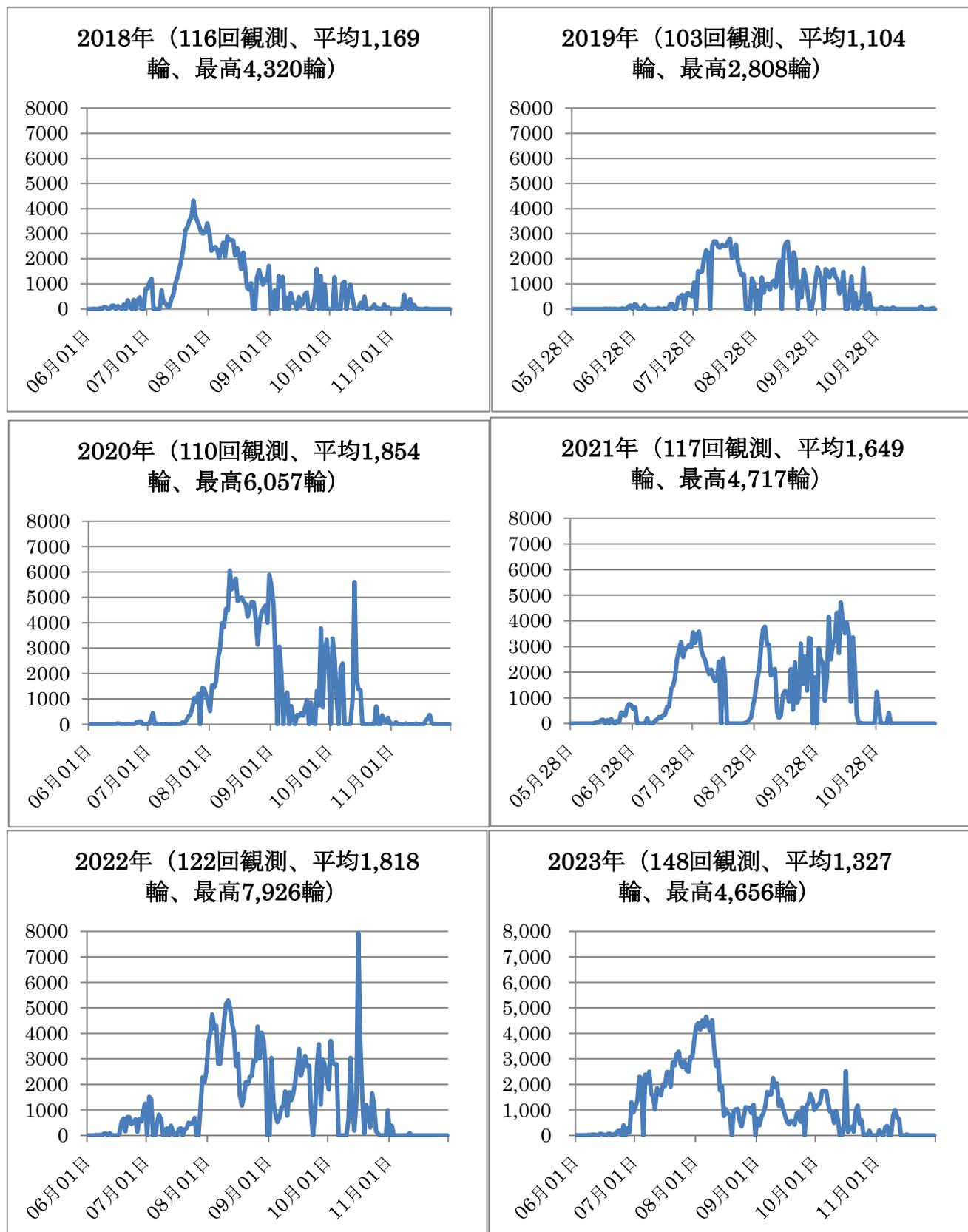
した。昨年の延べ総開花数は**221,818輪**、2023年は**196,323輪**になり、約12%減りました（前頁ナガバノ開花数・個体数変遷図参照）。

基準日の個体数は増加しましたが、平均・最高開花数は大きく減少し、総開花数も減少しました。開花数の増減は、個体数の増減と連動せず、隔年で増減を繰り返しています。地点別でみると、隔年で増減を繰り返しているところは第1地点だけで、他の第2～8地点は一定していません。それでも、全体では規則正しく隔年で増減を繰り返しています。2024年は増える年にあたりますが、どうなるか観察を続けたいと思います。

3) 開花のパターン

次頁の表はナガバノイシモチソウの一日ごとの開花数を示したグラフですが、開花数が増えた2018年から今年までの6年間はかなり似た開花パターンになっています。この6年間は雨が多く降って開花しない日以外は、ほぼ毎日開花数の調査を行いました。7月の下旬から8月にかけては、いずれも毎日多くの開花数を記録し安定して開花しています。8月下旬から10月にかけては一定量の花は咲きますが、短期間で増減を繰り返しているようで開花数は安定していません。つまり、開花期の前半と後半で開花パターンに明確な違いが見られることが分かりました。

ナガバノイシモチソウ日別開花数



2023年は7・8月の猛暑の影響なのか、8月中旬以降、開花数が極端に少なくなり、大きな増減を繰り返さずに推移しました。おそらく9月にナガバノイシモチソウの個体数が激減したことと関係があるのかもしれませんが。その後、開花数は若干増減しながら減少していきました（次号に続く）。